



2006年5月1日から5日にかけて、高知県黒潮町（旧・大方町）で、NPO法人砂浜美術館が主催するTシャツアート展が開催されました。VITA+では、高岡篤央（総合1年）を中心とした学生6名が現地へ赴き、地元の高知県立大方高等学校の高校2年生7名と連携して、このイベントを通じた地域活性化活動に取り組んできました。

Tシャツアート展は、全国からTシャツのデザインを募集し、それをプリントし、黒潮町の誇りである入野の砂浜に洗濯物のように展示するというイベントです。何もないと思われてきた砂浜に価値を見つけてほしいという町役場の畦地和也氏の思いから始まったこのイベントは、今年で18回目を迎えています。

最近まで、応募者数も来場者数も順調に増加していましたが、ここ数年、Tシャツの応募は1000枚程で伸び悩んでいます。まず、メンバーの下川佳代（総合1年）が「応募したい気持ちはあっても、まだ寒い3月にはそれを思い出すことができず、行動につながっていないのではないか」と問題意識を持ち、応募前の2月にTシャツアート展のお知らせを徹底することを解決策として提案しました。

そして、Tシャツアート展の会場に実際に赴き、来場者に声をかけ、来場の理由や、Tシャツの応募に関する意識を調査しました。このとき、高校生2名と大学生のグループを作り、地元の高校生に話のきっかけを作ってもらい大学生がサポート役にまわることで、来場している方々に好感を持ってもらうように配慮しました。その結果、約2時間で30数名の方々から連絡先を教えていただき、交流をすることができました。調査の結果、問題意識の通り、応募方法がわからずに諦めている方が多数いたことがわかりました。また、愛媛県などの他県からの来場者が多いことも特徴的でした。一方、地元では知人が出展しているからという理由で来場されている方がいるものの、自分で応募したという方はほとんどいませんでした。その理由は、地元は農業従事者が多く、田植えなどの時期と重なって忙しいということもフィールドワークから判明しました。

今回の活動で、地域における「よそ者」である学生が、第三者の目で地域の特性や素晴らしい資源を見極め、地域の方々との交流によってそれを再認識していただける可能性が見出せたと思います。さらに、イベントの期間中だけでなく、それ以外の大部分、生活の大半をどのように過ごすかが地域活性化に重要ではないかと思に至るようになりました。これからも、事に触れて地域の方々との交流を繰り返し、私たちが役立てる地域活性化の活動を見極めたいと思っています。（高岡篤央）